

高き志【こころざし】

6年生の大きな成長

運動会の練習がはじまる少し前、いつものように各教室の授業の様子を見て回っていました。6年生教室に入ると、どうやら運動会の応援団長や応援団員を決めているようです。しばらく様子を見ていましたが、積極的にやってみようという子はいないようでした。今年の6年生は、何事にもきちんと取り組み、やらなくてはいけないことや、言われたことを真面目にやり通すことができる素晴らしい子供たちです。しかし、全体的に少し積極性が足りないかなと感じる面がありました。どうやら、応援団長等を決める場面でもその面が表れていたようです。私が教室にいる間には決まらなかったため、少し心配しながら教室を出ました。

下の枠内は、そんな中で団長を努めてくれた2人が、運動後に記した感想です。（分かりやすくするように、一部漢字に変換したり補足を加えたりしています。）

私は、最後の運動会で赤団の応援団長として活動しました。最初、〇〇さんと△△さんと私が推薦されてめちゃくちゃなやみました。でも、甲斐先生が「最後の運動会だよ」と言ってくれたので、団長になると決意しました。でもいざ練習がはじまると、緊張してミスしたり、声が出ない日があったりしました。でも〇〇さん（前述一緒に推薦された一人）と◇◇さんがサポートしてくれたり、良い案を出したりしてくれたりしたおかげで今年の団長をやりぬくことができました。運動会本番、緊張はしていませんでした。ただ、楽しんで最後の運動会を最高の運動会にしようと思って、全ての競技で全力をつくしました。これまで自分が頑張ってきて、赤団のみんなも頑張ってくれたので、赤団が優勝できました。6年生がいなくなっても、1～5年生が次の運動会を最高にしてくれることを願っています。

ぼくが白団の団長になった時、最初は応援合戦で大きな声を出してみんなを引っ張っていいのか心配していたけど、後からはみんなの役にしたいと思って、そこから応援のしかたを練習していきました。最初は、はずかしくて声が小さかったけど、だんだんと大きな声が出せるようになっていきました。本番では、大勢の人たちがいてとても緊張したけど、白団みんなで力を合わせてとてもいい応援ができたと思います。結果は、大差で負けてしまったけど解団式の時、みんなとても明るかったから良かったです。応援団長として、たぶんだれでも最初は声を出せないから、そこから声を出すのはとても難しいことだと分かりました。やっぱり小学校最後の運動会だったから勝ちたかったです。でも、ぼくは応援合戦の時にみんなと力を合わせて応援できたことが一番楽しかったし、一番うれしかったです。

「子供たちの伸びる力はすごい。」…この二人の感想からこのことをひしひしと感じます。前述したように、この二人はやる気満々で団長を引き受けてくれたわけではないのです。しかし、引き受けた以上、責任感を持って頑張りを通してくれたことが分かります。そしてそこには、回りの子供たちのサポートがあったことも書いてあります。「団長を引き受けてくれたのだから、自分たちはしっかりと支えなければ」きっとそんな思いがあったのでしょう。6年生全体が大きく力を伸ばしています。さらに、勝敗という結果を受け止めて、思いが深まっていることも伝わります。

コロナ禍により、様々な行事が中止になる状況の中で、私たち教師が改めて感じていることがあります。それは「学校行事」の大切さです。行事には行事本来の目標があります。しかし、それだけではない、様々な成長の場面を、学校行事が提供してくれるのだということを改めて感じているのです。

「行事を通して力を伸ばす」…令和元年度学校便り第6号の題名です。（紙面で詳しく触れることはできませんが、学校HPでご覧いただけます）その時思っていたことと、今回感じていることがつながってきます。さらに、団長二人だけではなく、大きく成長した6年生の姿を下級生が見ているのです。「6年生の姿が下級生につながっていく」、このことに学校行事のさらなる意味があるのだと思います。